山のように住まう

1/50　A-A’断面図

職種：プログラマー（母）
一階面積：102.589㎡
二階面積：139.906㎡
延床面積：242.495㎡
建築面積：159.455㎡
構造：鉄筋コンクリート造

山のように「奥」を感じるたたずまい

コンセプト：古民家よりも田舎らしく山のように自由な秋田暮らし

プログラマーになって田舎で自由に暮らすといった生活像が理想のように語られる現在、田舎に求められる『自由』の形は現実との乖離が見られるようになった。

特に交通の便が悪いこと、サードプレイスを持つことが困難なこと、積雪期間が長いことによって生じる生活の窮屈感は秋田暮らしを考える上では避けては通れない問題である。

そこで、田舎暮らしの理想をかなえ、不便が豊かさになる住宅を考えた。

家の中に個人の自由があり気候による不便を豊かさと感じるような、住宅街にいながら山暮らしのような行動の自由と身体的な充実感が得られるような、「山のような暮らし」をかなえる住宅を提案する。

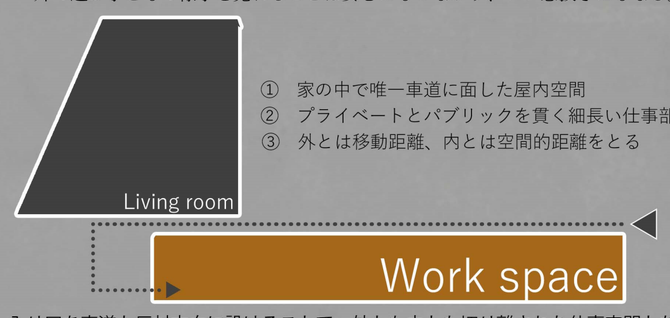
秋田県民にとって山は日常の風景の1つとして身近なものであり、豊かさの源であり、自由の象徴である。

敷地奥に向かって山のように盛り上がったボリュームが、住宅街に山という自由を演出する。

生活と切り離されたワークスペース

山道のように細長い空間を進み仕事場所へ。暮らしから距離を感じる奥の場所は住宅街にありながら、山小屋を思わせる落ち着いたパーソナルな空間へ。

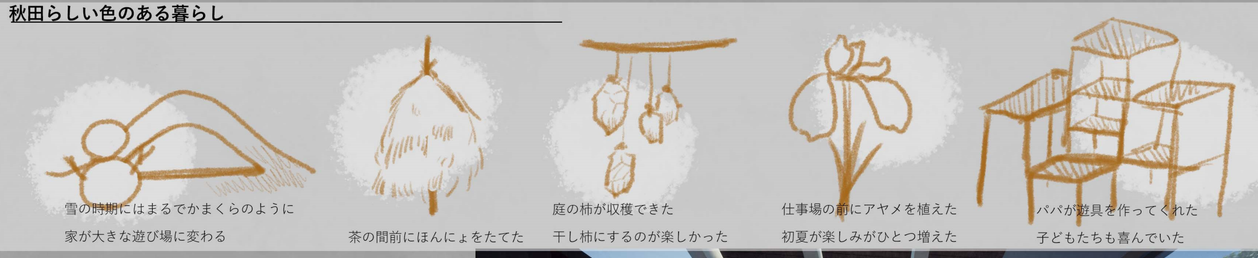
外で遊ぶ子どもの様子を見れることは安心にもつながり、いい息抜きにもなる。



① 家の中で唯一車道に面した屋内空間
② プライベートとパブリックを貫く細長い仕事部屋
③ 外とは移動距離、内とは空間的距離をとる

入り口を車道と反対方向に設けることで、外とも内とも切り離された仕事空間となった

秋田らしい色のある暮らし



雪の時期にはまるでかまくらのように家が大きな遊び場に変わる

茶の間前にほんにょをたてた

庭の柿が収穫できた
干し柿にするのが楽しかった

仕事場の前にアヤメを植えた
初夏が楽しみがひとつ増えた

パパが遊具を作ってくれた
子どもたちも喜んでいた

秋田らしい自由をかなえる生活空間

秋田暮らしに要求される
自由

- **空間的な自由**
  - 都会にはない自然への開放性
  - 空間の可変性
  - 居場所の多様性
- **関係の自由**
  - 個人的な充足を求める
  - 静かな関係性
- **行動の自由**
  - 登ったり走ったり
  - 線から解放された行動領域
  - 身体的な充実を伴うこと

秋田には秋田らしい自由が求められている。

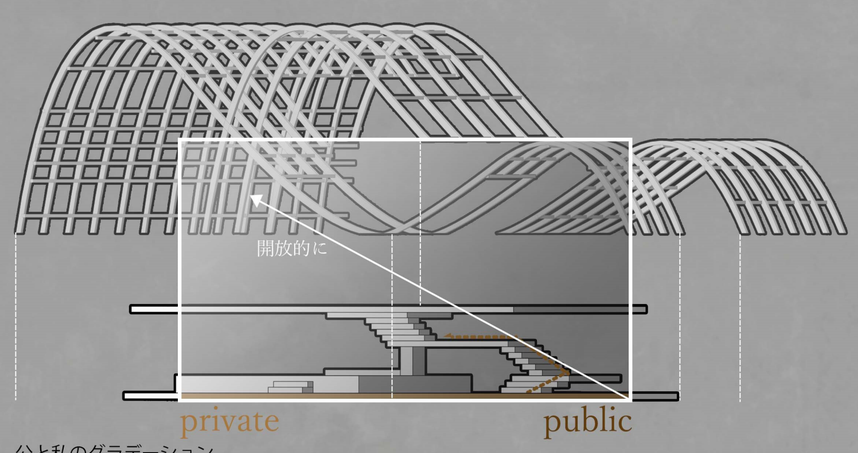
それは便利で効率的な生活からの開放であり、立体的な自由である。

そんな理想の秋田暮らしを実現するための難問は、居場所の少なさと家族間の関係の自由だろう。

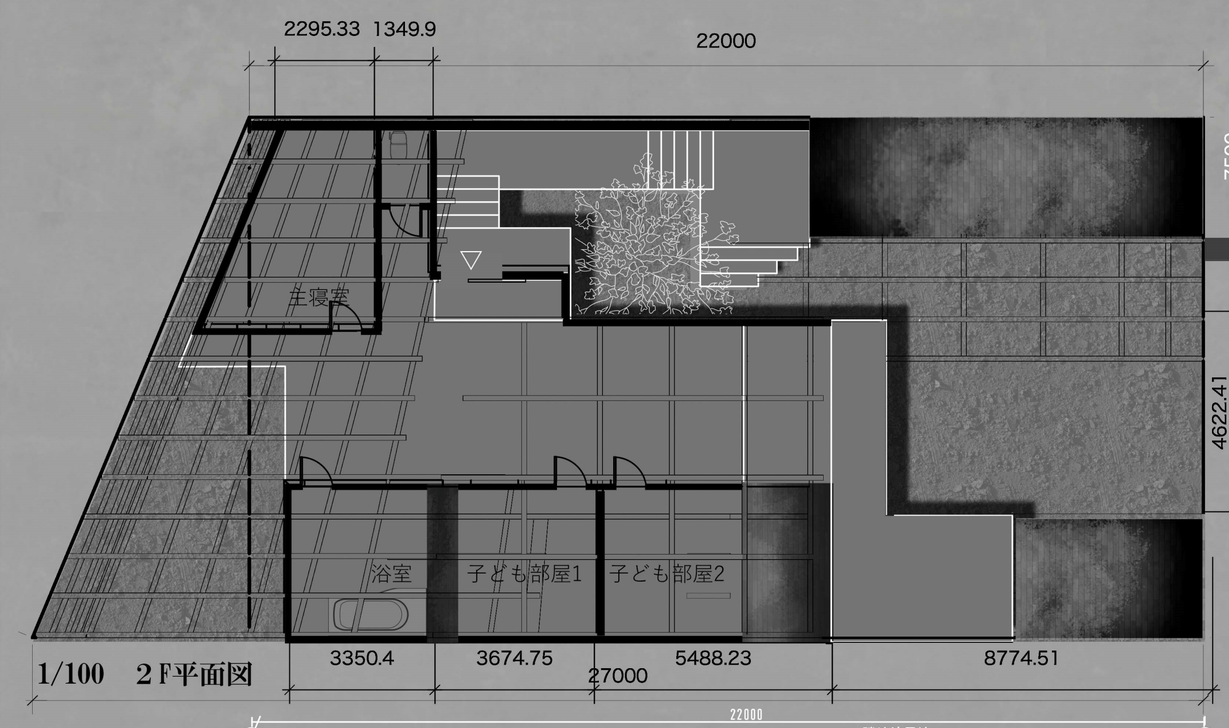
不便さゆえにお互いに依存せざるを得ない田舎暮らしは関係性が想像よりも窮屈になりがちだ。

林のように配置した丸柱と曲線的な構造体によって、開放的だが個人の自由を実現する半屋外空間を設計した。関係性的にも身体的にも内にこもらない思い描く暮らしを実現するために、パブリックからプライベートへ、奥へと進むにつれて、開放的な空間が演出されている。

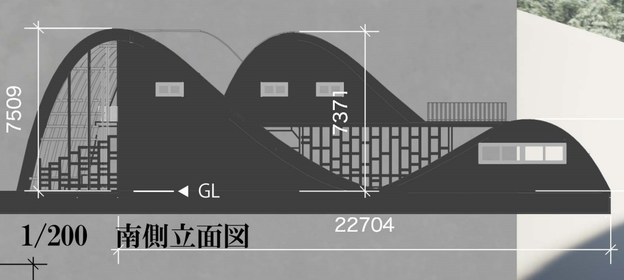
茶の間は山道の休み茶屋のように、家族が疲れを癒しに集まる場所として機能する。



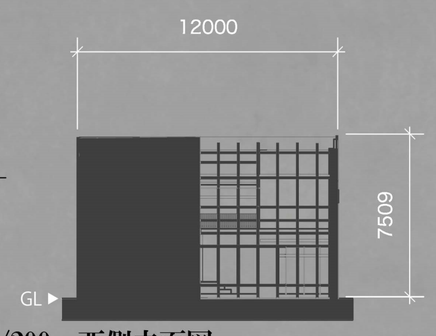
公と私のグラデーション



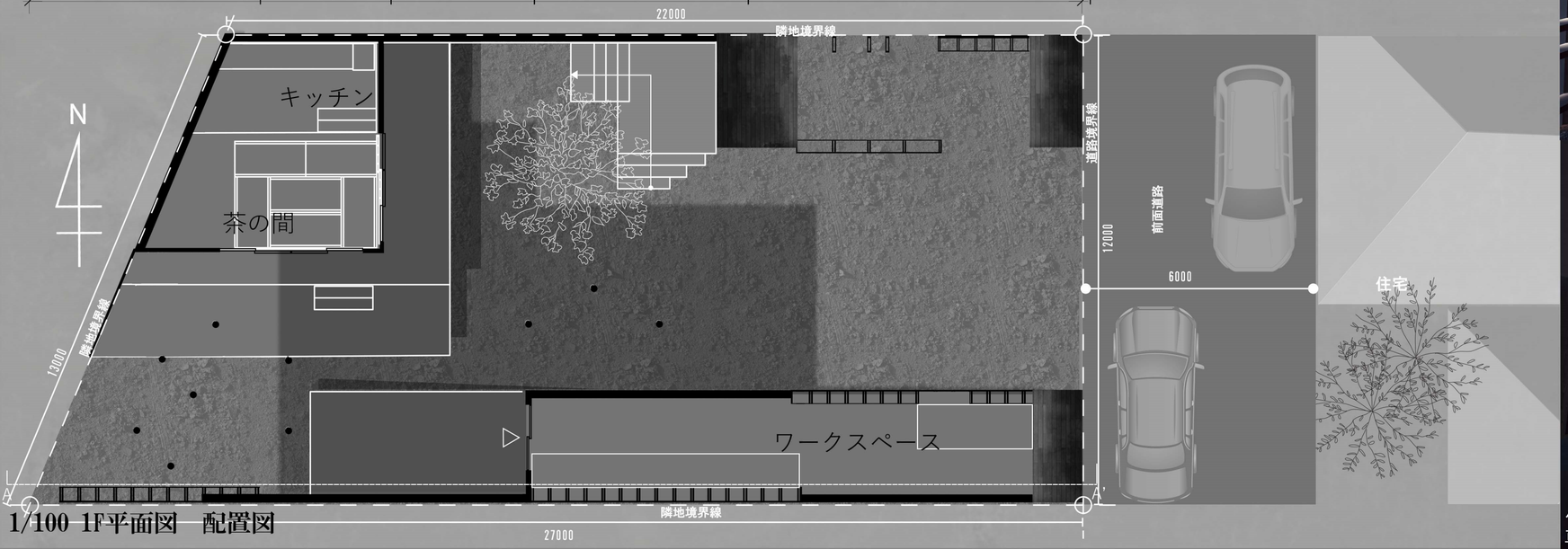
1/100　2F平面図



1/200　南側立面図



1/200　西側立面図



1/100　1F平面図　配置図

プライベートとパブリックを貫く細長いワークスペース
家にいながらオフィス空間のような公共性を演出する

二階に上がれば山頂のような開放感と、かまくらのように包まれた居心地

土のある空間には多様な楽しみ方を許容する
ほんにょを建てたり、雪だるまを持ち込んだり、アヤメを植えたり

パブリックとプライベートをつなぐ空間
車道側からもちらりと見える茶の間には、山道の休み茶屋のような安心感がある